



物搦集題目錄

煉部

初秋

七夕

一葉

柳

秋螢

柳扇

秋

骨

萩

秋系

草花

萩

秋

木槿

女郎花

楮

葉

為

中

花

縮

小

席

雁

鴨

名

名

本

月

名

本

月

名

Handwritten text in cursive style, including the title '大切 十 九' and '大切 十 九'.

Small vertical text on the left edge of the page.

Small vertical text at the bottom left of the page.



十三束
あまのえき
あまのえき

九月
あまのえき

紅葉射
あまのえき
あまのえき

物指集巻中四

解上

袖林

あつたれおろしそらうけは秋

あつたれおろしそらうけは秋

あつたれおろしそらうけは秋

あつたれおろしそらうけは秋

あつたれおろしそらうけは秋

あつたれおろしそらうけは秋

あつたれおろしそらうけは秋

あつたれおろしそらうけは秋

あつたれおろしそらうけは秋

あつたれおろしそらうけは秋

衣きぬくはきて夕ゆふれも織オリの舟も若
柳やなぎの葉も舞ひらりゆるをと
牽ひ牛うしの轡も時もやし時も新

○一葉

一葉ひとこほも若木きはらるを枝えだの風も産
一葉ひとこほの舟も帆も繩もいちもも見 産
一葉ひとこほといふもちらるを木きも同が友

○柳

柳やなぎの氣力きりきもちらるを一正
柳やなぎの葉もらりゆるを柳やなぎも産
清せいもあるもある

今いまもあるもある柳やなぎも親世よも産

○秋

人ひともあるもある時ときもあるもある 姓せい元
葉かみもあるもある柳やなぎの風も口も産

○柳

柳やなぎの葉もひらりゆるを産
葉かみも柳も産と柳も産と柳も産
柳やなぎの風もいちもも産

○秋

柳やなぎもあるもある夕ゆふもあるもある
柳やなぎもあるもある夕ゆふもあるもある
柳やなぎもあるもある夕ゆふもあるもある

柳やなぎもあるもある夕ゆふもあるもある

柳やなぎもあるもある夕ゆふもあるもある

柳やなぎもあるもある夕ゆふもあるもある

○ 霧

伊勢修作の人病氣おぼ
の後まうりて

やうきかきうひる見おひせり
お天よとて地の志まうりて

○ 萩

萩乃之定者もれや萩れ
萩と松やまき萩の中

伊勢人まうりて

源萩といせりもひ萩の志
萩まねまうりて萩の

○ 萩草

お萩の萩もはあうりて

式

まも萩もまうりて

お萩も人もまうりて

何うもれ萩もはあうりて

うかきて萩もまうりて

あつて萩もまうりて

時合の萩もまうりて

大萩もまうりて

○ 草花

萩の萩も風も萩の花

萩の萩も風も萩の花

○ 萩

西の小挿しを花也けり花也
茅乃花の小花をけり花也

花乃花の踏むもその花也
花乃花の踏むもその花也

○城野の花

花乃花の踏むもその花也
花乃花の踏むもその花也

○朝歌

花乃花の踏むもその花也
花乃花の踏むもその花也

花乃花の踏むもその花也
花乃花の踏むもその花也

花乃花の踏むもその花也
花乃花の踏むもその花也

花乃花の踏むもその花也
花乃花の踏むもその花也

○花

花乃花の踏むもその花也
花乃花の踏むもその花也

花乃花の踏むもその花也
花乃花の踏むもその花也

花乃花の踏むもその花也
花乃花の踏むもその花也

花乃花の踏むもその花也
花乃花の踏むもその花也

花乃花の踏むもその花也
花乃花の踏むもその花也

花乃花の踏むもその花也
花乃花の踏むもその花也

花乃花の踏むもその花也
花乃花の踏むもその花也

○桔梗

花乃花の踏むもその花也
花乃花の踏むもその花也

花乃花の踏むもその花也
花乃花の踏むもその花也

花乃花の踏むもその花也
花乃花の踏むもその花也

○菜

家^ヤの^ノく^クも^モあ^アく^クら^ラの^ノく^クあ^アま
第^{ダイ}の^ノく^クも^モあ^アく^クら^ラの^ノく^クあ^アま
風^{カゼ}の^ノく^クも^モあ^アく^クら^ラの^ノく^クあ^アま
秋^{アキ}風^{カゼ}の^ノく^クも^モあ^アく^クら^ラの^ノく^クあ^アま
菊^{キク}の^ノく^クも^モあ^アく^クら^ラの^ノく^クあ^アま
あ^アら^ラの^ノく^クも^モあ^アく^クら^ラの^ノく^クあ^アま

○ 菊

花^{ハナ}の^ノく^クも^モあ^アく^クら^ラの^ノく^クあ^アま
あ^アら^ラの^ノく^クも^モあ^アく^クら^ラの^ノく^クあ^アま
あ^アら^ラの^ノく^クも^モあ^アく^クら^ラの^ノく^クあ^アま
あ^アら^ラの^ノく^クも^モあ^アく^クら^ラの^ノく^クあ^アま

○ 菊

花^{ハナ}の^ノく^クも^モあ^アく^クら^ラの^ノく^クあ^アま
あ^アら^ラの^ノく^クも^モあ^アく^クら^ラの^ノく^クあ^アま
あ^アら^ラの^ノく^クも^モあ^アく^クら^ラの^ノく^クあ^アま
あ^アら^ラの^ノく^クも^モあ^アく^クら^ラの^ノく^クあ^アま

○ 秋田

あ^アら^ラの^ノく^クも^モあ^アく^クら^ラの^ノく^クあ^アま
あ^アら^ラの^ノく^クも^モあ^アく^クら^ラの^ノく^クあ^アま
あ^アら^ラの^ノく^クも^モあ^アく^クら^ラの^ノく^クあ^アま
あ^アら^ラの^ノく^クも^モあ^アく^クら^ラの^ノく^クあ^アま

蚊の田んぼまんがさいをうのり

○稲毒

稲毒は田んぼをまきやぶひり

とらふも光線ぶつのがれ

○虫

冬も子も痛や杖の中らひ

とらふの虫やじりもあつた

稲毒乃毒にさうりあつた

終虫はあつた海らぬまより

はるもあつたさうりあつた

或るうま

はるもあつたさうりあつた

はるもあつたさうりあつた

はるもあつたさうりあつた

はるもあつたさうりあつた

はるもあつたさうりあつた

はるもあつたさうりあつた

はるもあつたさうりあつた

はるもあつたさうりあつた

はるもあつたさうりあつた

はるもあつたさうりあつた

はるもあつたさうりあつた

○鹿

冬も子も痛や杖の中らひ

とらふの虫やじりもあつた

稲毒乃毒にさうりあつた

終虫はあつた海らぬまより

はるもあつたさうりあつた

はるもあつたさうりあつた

少くもやうらふと鳴麻は日
月よおかしん志くろ十の夜
おぼえを成志くむ麻や折しは
手紙

○鷓鴣

夕べくともけやむのねと鶉

一羽あつた鳥もあは鶉くまは
鶉あても志くろくひの鶉
鶉も志くろくひと鳴ろく
志くろくひの鶉も似ぬ鶉
鶉

小鶉

右あつた鶉もあは鶉くまは
何しは志くろくひの鶉
鶉も志くろくひと鳴ろく
鶉

○又

む乃林くろくひの鶉も
鶉も志くろくひと鳴ろく
鶉

○雁

おぼえを成志くむ麻や折しは
手紙
夕べくともけやむのねと鶉
月よおかしん志くろ十の夜
おぼえを成志くむ麻や折しは
手紙
夕べくともけやむのねと鶉
月よおかしん志くろ十の夜
おぼえを成志くむ麻や折しは
手紙

おききおたかおと二季おひつ日
為屋おきき

らんかんとおけおまの料理
気おまふお様おまの娘お日
らんかんの中お昔おあつお日

○ 鴨

もくきお大ま人のおあお純元
らんかにお海おん鴨おらお徳言
らんかにおまおまお海お新

○ 洗船

らんかにお船の洗おはおは
らんかにお船の洗おはおは

○ 礎

らんかにお礎おはおは

らんかにお礎おはおは

らんかにお礎おはおは

らんかにお礎おはおは

○ 木実

らんかにお木実おはおは

らんかにお木実おはおは

らんかにお木実おはおは

らんかにお木実おはおは

らんかにお木実おはおは

らんかにお木実おはおは

らんかにお木実おはおは

らんかにお木実おはおは

山つもけくまらるる娘らるる 純元
 のけりかゝるむあやふあいの日
 さぬきれあへ海りー時
 ありそらふとわらぬきあけ挿 蓬
 けつる籠るるや西新ありー枝 柏
 おら推し解るひるのまけ外一村
 山田やささふ本深何とせ掛 織
 為推軍府さふふあふあふ 義
 或人へ遊す
 ありなりけりーありけりの世る日
 九年母やな二号ふれあふらあふ

物集集あや五

秋下

月

秋月を月影乃内より一月の影
 月影のさう二九乃十八
 共庫あそく
 けんあれ共庫れ月よ娘乃の
 痛燭あそく
 ありあ山へいらるるあそくれけ
 娘風あひも月のあうらも
 き秋風あも月乃時こも
 ありびさそあも月や麻あそり
 をりや合乃あれあ乃月

並めぬとららんをうと月
形らあめむむら月のあまら

山坂のあまや月乃大かこ

もあへまうのうらうあ

乃入さうと月

あまは月やあまや乃海

あまのあまもあまや光が

あまやあまう月乃あま

あまうあまやあ月のあま

あま月あまあまうあま

あまあまあまあまうあま

あまあまあまあまうあま

あまあまあまあまうあま

あまあまあまあまうあま

あまあまあまあまうあま

あまあまあまあまうあま

あまあまあまあまうあま

あまあまあまあまうあま

あまあまあまあまうあま

あまあまあまあまうあま

あまあまあまあまうあま

あまあまあまあまうあま

あまあまあまあまうあま

あまあまあまあまうあま

あまあまあまあまうあま

あまあまあまあまうあま

ひつろのまゝんはつ月乃天磨也日

十又水月蝕也

まん丸を月乃記から此書合が書者

をたのりからはり月乃やうとお日

月と白丸から車とけいひる日

中月之崩あう一川 録

西の月乃さう城合何さかき日

あやまのお紫の月乃たさの外備

月蝕也

りら月乃さあも一記合外日

二階屋あめく月思也

三東も二階もてく月思外 亮

甲ひの山りはり月乃あて 寤

月乃を東凡ひく録もあて

あ乃月乃三川よのかみり不案

物計也目よあへる家三つ月乃

う紀あや只み月乃あつて 夏

月乃あまのさむく合をや日

つら山をりはり月乃あまをさ

あよ月乃大地和合のひる外 次

知事此地の屋く月乃あまをさ

初場乃月乃満地れ光う那 武

三男と酒をりころれ月乃あまをさ

月乃目よあま月乃入夕うあ 案

月や車めらあもまう一牛村 秋

月乃うああむい道あその 燈 日

菊月のほかろつちやーを撃日
さよふ人海りく

月代ちのそつち男は光日

横の月けのわろー不気

夫人の衣えつちつて月日

月入つてまきくれ物な書

ぬらぬらちり月つの中日

白河城つちあやその月日

くつ男かひつちつて月日

天衣んつ枝のえり月日

山のえり縁巻とあは月日

天上へ後せんまれ月乃日

ちちてつちつち月日

満月ちつち男はあつち日

挽えがはつちつち月日

あふみくちまね物り月日

月結よ

物入もあつちつち月日

ちちあつちつちつち月日

名月 付十四日付日

兵庫あつち

毎玉れ光やつちつち月日

十四日月のつちつち月日

りら月乃月つちつち月日

照月もあつちつちつち月日

のつちつちつちつち月日

いしよりひよ或所中よりなりよ
人と双六戯うちをわくれハ

うそやうそお月あつ十六日

夫よみのさあ城さうさう月を

名月然してんまうくはるおがき

あ月乃他又あうらう男うあはき

十四日よ

あよりり後やゆひのりら月を

月も名まのあさあさあはけけけ

或酒をよく

いさうひの月半樽のくみうま

或さあき

あふらう月乃所清う中六夜

草もあはけうあ三ぬ月乃西雲

名月乃あけ親もあはけうらあ

十三夜

月蝕よ

あはけうああ名月あはけうひを

あはけうああ名月乃光う那日

月あはけうあはけうああああ

りら月乃あはけあああああ

二子あうああ名月あはけう那親

あはけうあはけうあはけうあはけ

うあはけうあはけうあはけうあは

菊

あはけうあはけうあはけうあは

菊の白くはるる白くはるる

九日よ

よそとちあうあうのる菊の花

花のちちりたる中し菊の葉は

研ぐやゆぬは花をきく乃酒雲

せんといよちあうあう菊の葉は

花の葉は花の葉は花の葉は

花の葉は花の葉は花の葉は

花の葉は花の葉は花の葉は

花の葉は花の葉は花の葉は

花の葉は花の葉は花の葉は

花の葉は花の葉は花の葉は

花の葉は花の葉は花の葉は

花の葉は花の葉は花の葉は

花の葉は花の葉は花の葉は

花の葉は花の葉は花の葉は

花の葉は花の葉は花の葉は

花の葉は花の葉は花の葉は

花の葉は花の葉は花の葉は

花の葉は花の葉は花の葉は

花の葉は花の葉は花の葉は

花の葉は花の葉は花の葉は

花の葉は花の葉は花の葉は

花の葉は花の葉は花の葉は

花の葉は花の葉は花の葉は

花の葉は花の葉は花の葉は

酒玉麻糸いも金かねのなまよ

杉林乃のりとももぬぬよよ目め村むら國くに成なり

ああ山やま乃のりとももぬぬよよ目め村むら國くに成なり

ちちりり好このままいいもも何なにももたたいい話はなをを同どう

ちちりり好このままいいもも何なにももたたいい話はなをを同どう

屋やをを編あむむひひもも世よ乃のりとももぬぬよよ目め村むら國くに成なり

○者もの本ほんおお紫むらさき

深ふかまりまりてて目め少すくくく多ためめ成なりてて成なり

深ふかまりまりてて目め少すくくく多ためめ成なりてて成なり

深ふかまりまりてて目め少すくくく多ためめ成なりてて成なり

深ふかまりまりてて目め少すくくく多ためめ成なりてて成なり

深ふかまりまりてて目め少すくくく多ためめ成なりてて成なり

深ふかまりまりてて目め少すくくく多ためめ成なりてて成なり

深ふかまりまりてて目め少すくくく多ためめ成なりてて成なり

深ふかまりまりてて目め少すくくく多ためめ成なりてて成なり

深ふかまりまりてて目め少すくくく多ためめ成なりてて成なり

深ふかまりまりてて目め少すくくく多ためめ成なりてて成なり

深ふかまりまりてて目め少すくくく多ためめ成なりてて成なり

深ふかまりまりてて目め少すくくく多ためめ成なりてて成なり

深ふかまりまりてて目め少すくくく多ためめ成なりてて成なり

深ふかまりまりてて目め少すくくく多ためめ成なりてて成なり

深ふかまりまりてて目め少すくくく多ためめ成なりてて成なり

深ふかまりまりてて目め少すくくく多ためめ成なりてて成なり

深ふかまりまりてて目め少すくくく多ためめ成なりてて成なり

深ふかまりまりてて目め少すくくく多ためめ成なりてて成なり

深ふかまりまりてて目め少すくくく多ためめ成なりてて成なり

新田郷をともなふあけの下お祭
公方我昭るる人お祭あま

れ出の時おさうまの中へ
りみらりつえちりうひらり

お祭白せしし何りなれと

おひおつえいふるる尾お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

お祭お祭お祭お祭お祭お祭

出らひて杉本より下にお祭る
のりまのめく
お祭るの祭乃遊の志くへお祭
わ別りて

及付あがりりたるわ子向山
お祭るの祭乃遊の志くへお祭

○紅紫射

何者此射魚染りりみら射
山海乃海たるまやお祭る日

汁をそとの名紙けお祭射
射魚も海は何ぞれお祭射

○茸

ちくとくおちあつし
茸

猫足乃胎あくらも茸茸
○九月盡

屋福のよを何は志れん
○新秋

魚を眺つ
すめいふあられお祭るの志

猫迫門と云ふ
三川池の志くお祭るの海

申す
何れお祭るの志くお祭る

世上お祭るの志くお祭る

夕るお祭るの志くお祭る

大いお祭るの志くお祭る

萃乃子もあくるすのまはれあふ湖
 清も松枯らむ付まはれあふ
 身も山也香煙乃煙地の風凭
 そとく屋うすすまふ萃乃子たふ屋
 百もせはれあふも小町がらうまあ屋
 身の清も小町がらうまあ屋
 歌敷うらそがらもあんのの屋喜
 後生もそとく屋のまはれせうたふ日
 上原の屋喜あふまらうて
 新てまらうの屋喜はは子うま日
 奥流系念もて屋喜あふ
 飛井らう籠乃まらう烟屋あふ
 してせうのまらうの屋喜はは日

名あふ松風まらうの屋喜あふ日
 棚もあふ実蒲菊酒はは日
 身も山也香煙乃煙地の風凭
 山崎も松枯らむ付まはれあふ
 萃乃子も風也身も山也香煙乃煙地の風凭
 難波の屋喜あふもあふの屋喜あふ
 又月乃海日まらうかーくう那那屋
 乃らまらうの屋喜あふもあふの屋喜あふ
 久くぬ屋喜あふもあふの屋喜あふ
 南の屋喜あふ
 落葉ハいく九重そあううー八日
 中屋あふまらうー時あふ
 せん乃らまらうの屋喜あふ

ふお積乃のぬ城きこて
白河乃あふらえんすまのひか同
若乃おふと撥木のまよふ不整

物搦集題目録

冬部

初冬

中一

時面 二

落葉 三

枇杷

冬栲

早梅

冬月

霜

霰

暮

雪

氷

冬鳥

雪

綱代

埋火

歳書

新冬

物搦集卷中云

冬

初冬

天乃亦も十月あふ心小云

年の肉も初冬城のう小云外

冬月乃あつに付とやうに月日

落葉乃あつに付とやうに月日

霜乃あつに付とやうに月日

雪乃あつに付とやうに月日

霰乃あつに付とやうに月日

氷乃あつに付とやうに月日

冬鳥乃あつに付とやうに月日

埋火乃あつに付とやうに月日

時面

時每仍記也や新此並ん可け

十月一日時每れありて

まるとなと林とくふよの空け

是もまきもや時每れんて

まうてふかたも梅屋をゆ

浪音記州 兵行よ

山姥く屈やまられ乃山あり日

久米道場あり

時家まれ時每りまやも

をれ派車とけりりりり

松笠のえりりりりり

切り時毎れまきも

山姥とめりりりりり

○落葉

木葉たのまきくふ風屋大

長くくふ時毎れまきも

まきくく落葉はゆ

冬らぬお葉も風ゆる

りりおらりりりりり

ひまも無行よ

山姥もまきもまきも

まきもあらしりりり

木のら紙屋まきも

十月一日よ

十月一日よ

木のえ衣もまきも

毛種うらりりりり

松色乃山さゆめく

山は秋風も高き夕時毎に

○松色

松色乃も実つ面よりあつらな

蜂丸やあまの蜜をびよりのたれ

冬

冬あつらふんよまき花の

冬咲く入る松の節 如

早毒

梓乃ころ松もまきぬ野梅

冬咲く香あつらふん 梅死未

中月よもせんも咲むれ先

○冬月

たうひさかつそ月形餅を

寒あつらふんもあつらふん月形

冬あつらふんもあつらふん月形

冬あつらふんもあつらふん月形

○冬

冬あつらふんもあつらふん月形

冬あつらふんもあつらふん月形

冬あつらふんもあつらふん月形

冬あつらふんもあつらふん月形

○雲

雲のまよふもあつらふん月形

雲のまよふもあつらふん月形

雲のまよふもあつらふん月形

雪うらやあけくまれ花の
雪乃日場くろ多人のあけ人
よかくりひたり

雪母まこく袖さひもせぬ糸ら
初雪も津建く切白糸はく産

初雪も津建く切白糸はく産
初雪も津建く切白糸はく産

初雪も津建く切白糸はく産
初雪も津建く切白糸はく産

初雪も津建く切白糸はく産
初雪も津建く切白糸はく産

初雪も津建く切白糸はく産
初雪も津建く切白糸はく産

初雪も津建く切白糸はく産
初雪も津建く切白糸はく産

初雪も津建く切白糸はく産
初雪も津建く切白糸はく産

初雪も津建く切白糸はく産
初雪も津建く切白糸はく産

初雪も津建く切白糸はく産
初雪も津建く切白糸はく産

初雪も津建く切白糸はく産
初雪も津建く切白糸はく産

初雪も津建く切白糸はく産
初雪も津建く切白糸はく産

初雪も津建く切白糸はく産
初雪も津建く切白糸はく産

初雪も津建く切白糸はく産
初雪も津建く切白糸はく産

初雪も津建く切白糸はく産
初雪も津建く切白糸はく産

初雪も津建く切白糸はく産
初雪も津建く切白糸はく産

初雪も津建く切白糸はく産
初雪も津建く切白糸はく産

初雪も津建く切白糸はく産
初雪も津建く切白糸はく産

初雪も津建く切白糸はく産
初雪も津建く切白糸はく産

初雪も津建く切白糸はく産
初雪も津建く切白糸はく産

初雪も津建く切白糸はく産
初雪も津建く切白糸はく産

あり海に雲もあはれきよきつね
ねまを飛せよまの雲の雲
雲もならむけりあはれきよきつね
白雲よあはれ雲れ一丸け松
赤雲は雲もあはれきよきつね
雲やまの雲もあはれきよきつね
雲れは雲の雲もあはれきよきつね
山の雲もあはれきよきつね
雲もあはれきよきつね
丹列よあはれきよきつね
雲もあはれきよきつね
雲もあはれきよきつね

光りぬらむにわらむや雲佛
面白く先もあはれきよきつね
枯木もや飛せよまの雲の雲
雲もあはれきよきつね
雲もあはれきよきつね
雲もあはれきよきつね
雲もあはれきよきつね
雲もあはれきよきつね
雲もあはれきよきつね
雲もあはれきよきつね
雲もあはれきよきつね
雲もあはれきよきつね
雲もあはれきよきつね
雲もあはれきよきつね
雲もあはれきよきつね
雲もあはれきよきつね

興元集巻五

名もあひくもやれしじのたは
山雲もつる霧も清き紙日
雪乃竹やうひく雪は梓のこひ日
りら雪れしつちよあま日
雪汁は朝のうそまはれぬ氷日
あゝ人あはらりし時
依傍あはれしひく雪は清き日
あゝ雪のあはれしつちよあま日

雪よみよあはれしつちよあま日
雪もあはれしつちよあま日
は雪のあはれしつちよあま日
雪は清き日
雪は清き日

雪は清き日
雪は清き日
雪は清き日
雪は清き日
雪は清き日
雪は清き日
雪は清き日
雪は清き日
雪は清き日
雪は清き日

○氷

氷は清き日
氷は清き日
氷は清き日
氷は清き日
氷は清き日
氷は清き日
氷は清き日
氷は清き日
氷は清き日
氷は清き日

漁乃為物之喉^{いづ}志^し水^{みづ}なり
 細^こり^りな^られ^る切^きり^りなる^る處
 射^やの^ま池^いに^ち中^{ちゆう}に^しわ^くと^いふ^日
 勝^かむ^む海^{うみ}老^らや^水乃^{のみ}と^いふ^日
 有^あ桶^{ぼく}よ^と山^{やま}に^し水^{みづ}あ^らた^るる^日
 波^{なみ}の^あや^は流^{なが}る^るも^らり^る水^{みづ}の^日
 う^らな^らむ^らな^らし^るも^らり^る水^{みづ}并^なり^るま^ま
 き^らと^み志^しの^ち射^やは^らく^る鬼^{おに}の^川投^な
 波^{なみ}の^流る^るも^らり^る水^{みづ}の^日
 射^やの^池に^中に^しわ^くと^いふ^日
 水^{みづ}の^日
 志^しの^日
 志^しの^日
 志^しの^日

市^{いち}海^{うみ}城^{じやう}を^もら^せる^日
 志^しの^日
 志^しの^日

く^く海^{うみ}へ^へ来^きり^るく

思^{おも}ひ^の流^{なが}る^るも^らり^る水^{みづ}の^日
 環^{わん}球^{きゆう}城^{じやう}を^もら^せる^日
 海^{うみ}の^日
 志^しの^日
 志^しの^日

報^{ほう}海^{うみ}め^めく

あ^あら^らむ^らあ^あ報^{ほう}乃^の海^{うみ}の^日
 海^{うみ}の^日
 海^{うみ}の^日
 池^いの^日
 池^いの^日

あはれやにひの城を海氷に成せ
川を舟一舟も流るははるる
あはれ

あはれや城とよまきく河に
殺せ城をたもたらはれ城の
池ありて濁れまて鴨を
七葉東水に流めく

屋も池のをもとより流るる
室何そりし流りも子を是
東水下旬の時

あはれやも海乃をそり河城
漢流海ありはるるあはれ
あはれあはれは是しとつる

苦船を舟乃あはれははるる 休る

あはれや実くつりのまきく河を
あはれ乃もつり池のひる造 日

捕列めく

あはれやもけけあまうんあもはる
あはれ乃かきもあはれあはれ

あはれやあはれはあはれあはれ
あはれ乃あはれあはれあはれ

あはれやあはれあはれあはれ
あはれ乃あはれあはれあはれ

あはれやあはれあはれあはれ
あはれ乃あはれあはれあはれ

南田川一航之時

来り由全方なるにふも都多日
○考

といふに轉場れおの幕一ひ成
思ふに形式乃一はきれ其
死也やそれとてあつたるの堅
○綱代

奥流泰倉り

衣河也繩より河何りりも
○野火

よやゆんやんやんやんやん
並居も皆せくぬれ志を
意かせるゆりり此君久れ

歳暮

まゝらに六年の運河の幕
何けいまよらうと戸たつ
はりり一年の歌乃志を
これ一年の御ぬい志を
尻りちもはつてしうら
草詰夫もはまてあら
昔ふれ相あつぬや思
仍年乃やきたまは
昔ふれ山はもらふい
ふりもやらまをよん
報

報
乃これ餅いふも

命をせしむるおとあらん冥子餅
羽筆の冥炭よりけしうひひ
酒のめいなる志んほやおらりん
猿乃尻まうし志んぬおあひ
昔あらく切はかり掃地ひを屋
或人おらり時とあはれ

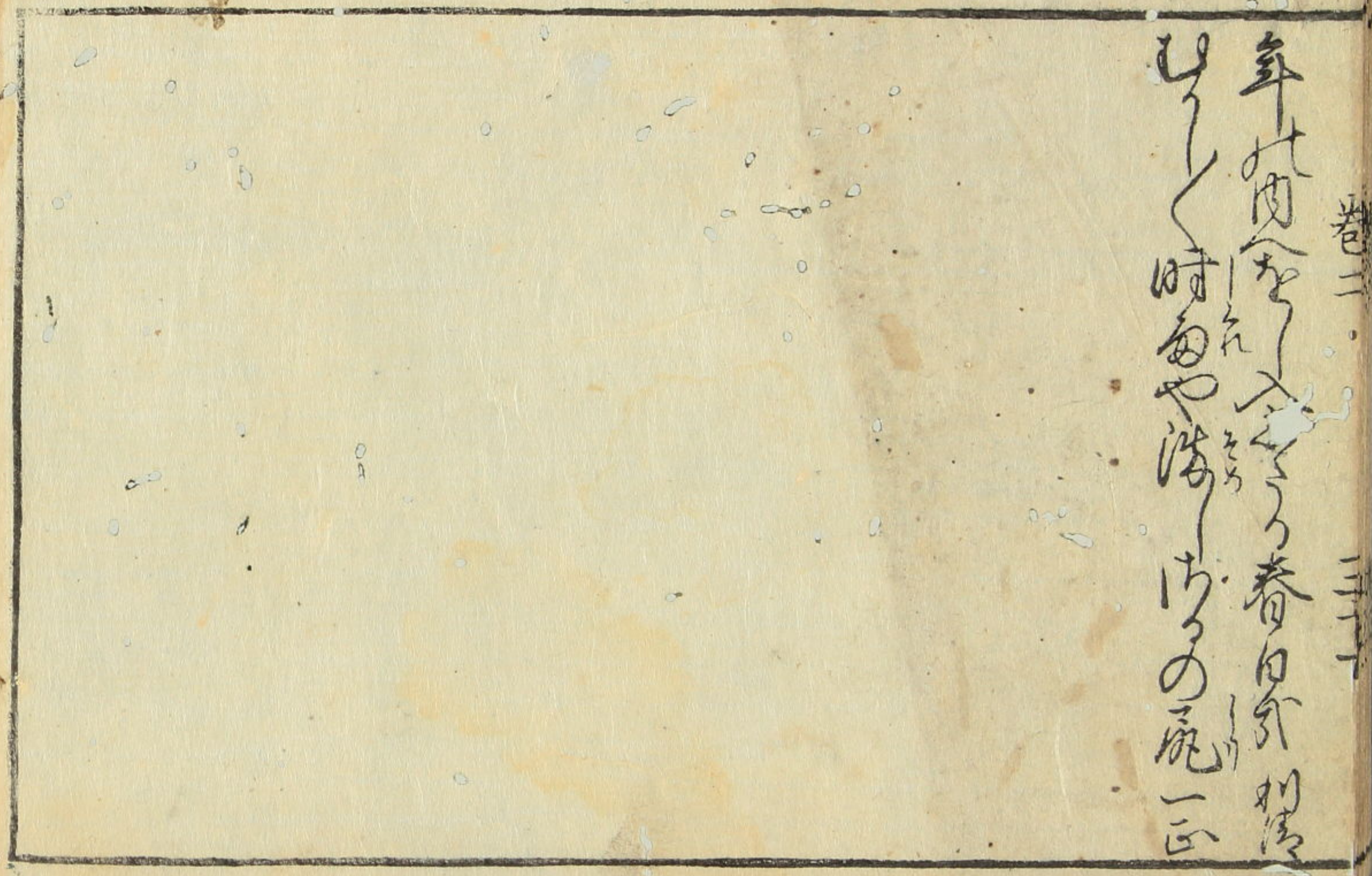
とわかあしつらうよ
時をすけえうしき乃中
冬を重くうしきもあまうし二
傍らう若れま物やう海はん
白の鳥越あまれあまうし
東ま下く乃甲あま
とくともや葉井よひて園あま

吹ゆき乃酒や何のあを中
りりゆあまの三乃磨うれ
大塚の書風をうし乃時
かりて白の神糸し女のきく

わうや白のなまうし乃
小雲子操飛鳴らつて
根斗の枝め二度うり乃れ
ををや形乃うてまれ教
折久くさうあはれ乃れ
あまてはあされ乃れ云も

とあめ乃うしあか入
嘆氣しそ志んれあま
年肉さす

年廿四(を)入(る)春(の)白(の)氣(の)初(め)
ひ(し)く(時)も(や)流(る)し(る)の(屍)一(正)



い(し)な(る)は(た)か
よ(う)な(る)は(た)か
よ(う)の(は)な(る)は(た)か
か(ら)な(る)は(た)か
あ(ら)な(る)は(た)か

い(し)な(る)は(た)か
あ(ら)な(る)は(た)か

あ(ら)な(る)は(た)か
い(し)な(る)は(た)か

